

令和4年度 第9回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和4年12月8日(木)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後 2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後 4時40分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 港 耕作
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開 会
定刻、定足数に達しており、令和4年度第9回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第8回定例会会議録の承認について承認
- 3 議 事
報告第25号 令和4年度垂水市一般会計補正予算(第7号)案についての市長への意見申出について
議題第19号 令和5年度垂水市一般会計当初予算要求について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第25号 令和4年度垂水市一般会計補正予算（第7号）案についての市長への意見申出について	令和4年度垂水市一般会計補正予算（第7号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
議案第19号 令和5年度垂水市一般会計当初予算要求について	令和5年度垂水市一般会計当初予算案の作成について、教育委員会の意見を申し出ようとするものである。	特記事項なし	承認

議 事 内 容 等

3 議 事	
教育総務課長	報告第25号 令和4年度垂水市一般会計補正予算（第7号）案についての市長への意見申出について
田原委員	公民館費の自治公民館建築補助金の内容は。
社会教育課長	上犬之馬場振興会の屋根の修繕に対する補助金である。
葛迫委員	芸術文化振興費の修繕料。和田英作画伯のアトリエの修繕であるが、アトリエはあまり利用されていない。説明板とか庇の修繕も大事だが、もっと大きな利用目的で修繕をすることは考えられないか。
社会教育課長	今回は台風で被災した分を保険適用分をあげさせてもらった。前回の市議会でも北方議員からアトリエの老朽化について指摘させたところであるが、活用方法については、御指摘のとおり、殆ど活用させていない状況である。今後考えていかないといけない問題であると思っている。
葛迫委員	外にバラを植えるのもよいことであるが、部屋の中に入って何か使用目的があればいい。

社会教育課長	中のスペースも狭くてなかなか難しい。和田コンの作品を展示すればどうか。
教育長	一つは保存。もう一つは利活用。この二つを考えないといけないが、アイデアがなければアンケートをするなり、こちらからの仕掛けが必要では。外に発信するのもいいのではないか。
社会教育課長 教育総務課長	窓枠がボロボロだと議会から指摘があったので、とりあえず今回はそこを修繕する。古くて中が凄く痛んでいるが、和田英作さんのアトリエだから簡単に壊すわけにもいかない。平成17年当時リニューアルをしているということだが、どこをどうリニューアルしたのか資料も残っていない。
教育長	光熱水費は、教育委員会全体では1,000万円ぐらいになっている。また、明日の総務文教委員会で聞かれるかもしれない。
社会教育課長	文化会館の利用頻度も去年からすれば上がっている。イベント前の練習とかリハーサル等も増えている。
	<p>議案第19号 令和5年度垂水市一般会計当初予算要求について (非公開) (議案第19号 承認)</p>
4 その他	
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>「11月15日 小中合同音楽会」</p> <p>三年ぶりの開催で、子供たちも保護者もわくわくした雰囲気を感じられた。牛根小学校の元気いっぱいの太鼓の演奏に始まって、中学生の合唱、吹奏楽の演奏で締めくくられたが、自分たちの最高のパフォーマンスを披露したいといった思いの込められた各学校の発表であったと思う。個人的には、水之上小学校5年生で親戚の男の子がピアノを弾いたのにはびっくりした。弾いているところを見たことがなかったので、できるんだと感心してしまった。最後に、学校教育課長の歌と講評には感服した。素晴らしいものを見せて貰い、いい音楽会だったなというふうに思った。</p> <p>「11月21日 第2回垂水市人権研修会」</p>

こちらにも徐々に参加して、思いがけず感動的な話が聞けて、心が洗われる思いがした。いろんな話があったが、特に私の心に響いたのは、自己肯定感を高め、自尊感情を育むという、どちらも、学校教育にも、家庭教育にも、その根幹となる考え方だと思った。

講師の常深透先生は、中島みゆきやMISIAの歌をバックに、その歌詞の意味と重ねながら、「生まれてきてくれてありがとう」とその存在そのものを愛おしく尊いものと感じる心があったはずであるが、いつしか「普通であること」の捉え方が違い、人それぞれのよさ(きらりと輝くもの)が見えなくなってしまっている。先生の話聞きながら、反抗期を迎えた、小6男児を持つ娘の育児奮闘記を思った。たまに帰省した時、親子喧嘩をして、頭ごなしに浴びせる言葉、感情的にぶつける言葉とか、自分が叱られているようで辛い。これでは自己肯定感や自尊感情は育たないよなと思っている。いつか娘に教えてやろうと思っているのだがまだやれてはいない。この研修会で、自分の日常を振り返るいい機会になったなというふうに思っている。

12月6日 南日本新聞記事「保育士による園児虐待事件」

園児が虐待されていたが、私達も他山の石としたいなというふうに思った。泣いたり嫌がったりすることはできても、他人にされた行為を親や第三者に訴えることができない一歳児に対して、足を持って宙づりにしたり、頭を叩いたり、頬を押したり、カッターを見せて脅したり等々、15項目にわたる虐待行為をしつけと称して繰り返していた行為は、保育士としてあるまじき行為だと思う。内部告発で知った園長は、これを隠そうと、全保育士に誓約書を書かせて隠蔽しようとした。後に裾野市も知ることとなるが、園からの報告が遅く、市も報道されるまで、三か月以上問題を公表しなかった。結局虐待を放置し続けたと言われても、申し開きができない状況である。関係の保育士3人は逮捕され、園長は刑事告白され調べられている。虐待事例15項目は、中高生の凶悪ないじめで出てくる事例と全く同じで、こんな質の悪い保育士がいるのかと、人間として疑いたくなる。私も中学校にいたときには、こういう事件があったりすると、その都度、新聞記事をコピーして、職員会議や朝の会等で指導したものであるが、おそらく福里委員も早速自分の幼稚園の職員に指導されたと思いますが、このような事例が発生した時の対処の在り方など私達教育委員会も、他山の石としなければいけないのではないかと思ったところである。

霧島アートの森「チェ・ジョンファ展」について

実は、今資料をお配りしましたが、12月2日付の南日本新聞「南風録」に次のような記事が掲載されていました。

▼韓国の現代美術家チェ・ジョンファさんは、「ある一瞬」を、日常品に見だし芸術に昇華させたと言えよう。霧島アートの森(湧水町)で開催中の個展は、野菜や鍋、フライパンといった、身の周りの物に、着想を得た空間造形が出迎える。

葛迫委員

▼たるや色鮮やかなプラスチックのバケツ、ザルなどを天井近くまで積み上げた「花開く森」は、寺院の柱のようなオブジェが林立する。漁業用の浮き球は、らせん状に連なり、今にも動き出しそうだ。

このような記事が掲載されていましたが、実は、三、四年程前になります。この作家のチェ・ジョンファさんは垂水を訪れておられます。その時、私もお会いして、いろいろな話をしました。「子供たちや色々な人達とアート作品を作りたい。そして展覧会をしたい。」ということでした。垂水市に来た理由としては、「廃棄処分になったものや、不要になり使われなくなったものを探している。例えば、漁業用の浮き球や海岸に漂着したものを探している。」ということであり、海潟漁港を紹介したことを思い出しました。私はこの記事を見て、しまったと思い、翌々日には、霧島アートの森へ、雨の日の日曜日でしたが個展を見に行ってきました。

この展覧会は、実際は2020年夏の開館20周年特別企画展として予定されていたらしいのですが、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、二度の延期になったようです。会場は、八つのブースに分かれていました。

最初のブースの「豊穰の森」では、白菜、ナス、メロン、豚といった動植物をバルーン作品としてインスタレーションしていました。「バルーン」という、地球儀みたいなもの。

二番目のブース「あなたこそモニュメント」では、野外作品に映り込んだスナップ写真を募集し、製作したインスタレーション。この小さな写真の中に、こういうのがありました。皆さん知っておられると思いますが、この作品もチェ・ジョンファさんが作った作品なのですが、これに、顔を映した子供たちの写真を募集して作ったインスタレーションがあります。

三番目のブース、「花開く森」では、鹿児島や韓国の古い素材、タイヤやブリキの衣装ケースなどがタワーのように天井近くまで積み上げられていました。また、垂水の海潟漁港で集めたと思われる浮き玉が、らせん状に連なり天井近くまで達していました。

四番目のブース「キリシマゲンセン」では、霧島温泉の写真によるインスタレーション。そして五番目のブースには、「作家の言葉」。六番目のブースには「遊び場」。そして七番目のブースには、「ワークショップ(集めよう集まろうプロジェクト)」小学生を対象に、使われなくなったものを子供たちに持ってきてもらって、それをタワーにして作品が展示されています。

最後のブース「自然史博物館」では、鹿児島の大地が育んだ温泉を素材としたインスタレーションと多種多様な作品が所狭しと展示されていました。ギャラリートークの中で学芸員の方が、「物が溢れている現在、新しい物がどんどん生産される時代にあって、不要になり使われなくなったものは、ごみ化していく。チェ・ジョンファさんは、その使われなくなったものに再び命を吹き込ませることで、アートとして蘇えさせているのです。死から生へと新しい命が生まれ育ち、また死というものが訪れる。世の中はその繰り返しであると、作家は表現している。」と説明されていました。

私は、「ごみとは何だろうか。芸術とは何だろうか。美しいものとは何だろうか。綺麗なものとは何だろうか。」というような問いで頭がいっぱいになっていた。その日は非常に考えさせられた1日でした。

田之上委員

「小・中合同音楽会について」

本当に久しぶりに聞く太鼓の演奏、小学生らしい合奏、元気で美しい歌声、また、手話やICT機器を活用したりと、工夫をされた音楽会だったなと思いました。舞台の上で、堂々と発表する姿に感動しました。そしてとても楽しい時間でした。やっぱり音楽っていいなと思いました。

「市総合教育会議のこと」

昨年からGIGAスクール構想については、私たちも何度か説明を受けたり、勉強させてもらったりして、学校訪問等で実際に活用が進んでいく様子を拝見してきました。今回、会議の始めに今村指導主事の説明をお聞きした中で、私は本当に恥ずかしながらだったのですが、このGIGAスクール構想について、ずっと言われている、「学びが新しいものになっていくのではなくて、学びのツールが変わっていくんだ。」ということを改めて実感しました。

「今までの学びは紙媒体中心のものでしたが、そこから色々なものが活用されていくことで、媒体は紙でなくなっても、グループで交流をしたり、発表し合ったり、その学びというのは、今までと変わらずにそこにあって、それがより活性化されていくことであろう。」と期待しているところです。また、個人にあった学びの提供も進んでいくものと思われまます。会議の中でも、使い方や色々な格差についてなど問題点が指摘されましたが、先進地に学んだりして、垂水の子供たちにあった学びを提供して欲しいなと思うところです。

最後に、「読書の秋」ということで、毎年のことですが、今年も垂水小学校の1、2年生と、協和小学校でお話し会をさせていただきました。朝の10分間の読み聞かせの時間と違って、授業の時間をいただけるので、子供たちとじっくりと楽しい時間を過ごすことができました。こちらは本当に超アナログで手作りの人形やペープサート・大型紙芝居などを用いたお話し会です。後日、垂水小学校の司書さんから、「早速、お話し会関連図書のコーナーを設置したところ、みんな貸し出し中ですよ。」と伺いました。少しでも、本を楽しむきっかけを提供できていたら本当に嬉しいなと思うことでした。

福里委員

11月13日(日)に中央中学校の文化祭に参加しました。私自身初めての中学校の文化祭だったので、すごく楽しみにして出かけました。感染症対策として自分の子供がいる学年の合唱しか見れなかったのが、他の学年の合唱は見えていません。息子のクラスは1年2組ですが、1組が上手だ

って聞いていましたけど、実際に聴いてみると、2組も案外いけるんじゃないかと思うような歌声でした。しかし、校歌はすごくよかったのですが、課題曲になったときに、「これ音程本当に合っているのかな。」と思うくらい男子生徒の声が、もうぐいぐい前に出てきて、声がすごく大きくて、お世辞でも上手とは言えませんでした。でも、頑張ってる姿がすごくいいなあと考えて何故か感動してしまいました。息子は何も言わなかったけど、姪っ子に聞いた話だと、その男子生徒たちは、「元気なのはいいけど、あまり声を出しすぎだよ。」って、練習の時から言われていたみたいです。しかし、気持ちがもう舞い上がってしまったのか、すごく頑張って歌っている姿を見て、こちらもすごく感動してしまいました。次に3組の歌を聞くと、やっぱり3組すごいなって思うほど素晴らしかったです。賞も3組が受賞していたが、いいなと思って聴いていました。頑張っている姿が見られて本当に感動しました。

垂水市の音楽発表会も、ちょうど娘の学年が参加できました。息子たちの学年が発表して、次の学年からコロナで発表会がなかったのも、今年からまた発表会ができることになってすごく幸運でした。ここでも感染症対策で、何時以降でないと入場できないという制限があったので、最初の部分は鑑賞できなかったけど、娘は、「あの太鼓、すごく格好よかった。」と喜んでいました。垂水小学校も、リコーダーを演奏する姿がさまになっていて、格好いいと思いました。新城小学校は、画像を映し出していました。協和小学校もすごく渋くて、学校毎に、それぞれ特徴が出ていて、来年もまた実施できるといいなと思いました。

11月18日(日)は垂水中央中学校の授業参観とPTAに参加しました。全クラスで担任ではない先生が授業を行うというスタイルで道徳の授業をしていました。授業中、人の意見を聞かないといけない時に、友達に対してちょっかいを出したりする生徒や、私語をする生徒も多く、少し心配になりました。その後のPTAで、「授業態度はあれがいつもの光景です。」って、担任の先生がおっしゃっていて、授業態度の悪い生徒がいるという話もPTAの中で話題になりました。しかし、それを変えようとする生徒も、最近では少しずつ多くなってきているということも言われました。

合唱の練習も、最初はなかなかうまくいかなかったという話を担任の先生がしてくれました。文化部長である息子は家では何も話してくれなかったけど、なかなか最初はうまくいかなかったみたいです。練習を一生懸命やらない方が格好いいと思ってる生徒が多かったそうです。しかし、副担の先生が、一生懸命やりきる事の大切さを生徒に指導する際、言葉は悪いけど「あなたたちマジださい！」と言われらしく、生徒たちがその言葉にすごく食いついて、「一生懸命やらないといけないということが分かった。」と家で保護者に話してくれた生徒も多かったみたいです。そういう裏話があったことを全然知らなかったのも、知っていたら、当日の合唱を聞いてもっと感動しただろうなと思うことでした。

担任の先生も副担の先生も、「やる時はやるんです。1年2組！」と言わ

教育長

れて、「すごく頑張っていましたよ。よかったですよ。」って先生も褒めてくださいました。中学校一年生、特に2組は何故か落ち着かないということを他の人から聞いていましたが、最近は徐々に頑張ってきているという話も聞くようになったので、何とか纏まってくれたらいいなと思っています。それと、中学校の定期テストも終わり、成績の上位の生徒と下位の生徒が両極端に分かれだして、平均点もなかなか上がらないようです。今年度のテストも残り二回なので、みんな計画的に勉強していい結果が出るといいなと思っています。

いよいよ12月に入りました。師走になって何か慌ただしくなってきたような気がします。こんな時こそ学校に言いたいのは、「事故を起こさないように、子供たちをしっかりと守ってほしい。」ということです。

そして12月議会へ。明日で一応、大きな山は越えるかなと思いますけど、一般質問、国体推進課は何もなかったですが、他の三課長はそれぞれ質問がありまして、きちんと対応してもらいました。質問の中身については、いろいろ考えさせられることもありました。やはり、このコロナ禍で物価高騰等を背景として、子供の、或いは子供を持っておられる保護者の負担軽減も図っていくというようなところがあり、基本的に課長は、全体のバランスを考えながら答弁したところでした。また、社会教育課もいろいろありましたが、きちっと対応してもらいました。

教育総務課は、給食に絡めてのことや、教職員住宅のことが質問されました。実際に教職員住宅の稼働率が50%を切っているわけで、その利活用を考える必要があるのではないかという内容の質問でした。「教職員住宅という縛りがついていると、目的はそれにしか使えないので、それを解いてやって、全庁的にアイデアをいただきながら市全体で利活用を考えていきたい。」と最後は私が答弁しました。また、教育委員の皆様方もアイデアがあれば、是非お聞かせいただけたらと思います。「こんな使い方はいいんじゃないの。」みたいなものがあれば、教えていただけたらと思います。

先程から委員の皆様方から話が出ております、小中合同音楽会ですが、本当によかったですね。子供たちが喜んでる姿を見るのは、やっぱりいいですね。音楽は人を変えるというか、華があるというか。子供のよさが、まさに直接伝わってくる感じがしました。歌声、和太鼓、吹奏楽を全部含めてですね。しかし、何と言っても圧巻だったのは学校教育課長の歌。音楽のスペシャリスト。やっぱり本物だなと思いながら聴いていました。久しぶりに彼の歌声を聴きましたが、子供たちがやっぱり一番びっくりしたのではないかと思います。「本物ってやっぱりこれなんだよな。音楽ってこれだよな。歌う声ってこれなんだよな。」というところに圧倒されたんじゃないかと思います。「あんなふうになりたいな。どうしたらあんな声出るんだろう。」と思った子もいたと思います。素晴らしいものを久しぶりに私も聴かせてもらいました。ありがとうございました。

総合教育会議のことを田之上委員が話されましたけど、いろいろと経緯

があって、そしてまた全国で認められて、垂水市が日本ICT教育アワードで会長賞の表彰を受けることになりました。このこともまた、議会へ報告というか私の思いみたいなものを語ってくれということでしたので、それに応えることでした。(賞を)貰ったからにはまた頑張らないといけないという気持ちにもなりましたし、すでに、来年度に向けてこんなことをしたい、あんなこともしたいという思いも湧いてきております。そういう思いもまた大事だと思いますし、一つ一つを形にしていきたいなという思いも持っております。

次に、この会が始まる前に新城小学校の嬉しいニュースが届きました。マイクラカップ南九州ブロック。これは何かというと、マインクラフトというソフト(アプリ)を使って、子供たちが、学校を中心としたまちづくりを構想するのですが、確か市報の隅っこにこの新城小学校の子供たちの作品が載っていたと思います。南九州のブロックで、いわゆる優秀賞を受賞したと。これは二位相当の賞だそうです。奨励賞が3位相当の賞。南九州ブロックは、熊本、宮崎、鹿児島の子供で構成するブロックで新城小学校の児童が受賞されました。新城小学校すごいですよね。

校長先生が、兎に角、自分の持っているそのノウハウの全てを子供たちのためにというところで頑張っていたいただいたお陰だと思っております。だから子供たちがやっぱり、他の学校とはちょっと違うかなという感じがします。先生方もまた燃えて、非常にこのGIGAスクールを一生懸命やってくれています。詳細については、また情報が届き次第、詳しく話したいと思います。そんなふうにして、優秀賞、或いは奨励賞をもらう子供たちはきっと自信を持って、また学びを深めていくのかなという感じがします。この子供たちは五、六年生ですので、もうすぐ中学校に上がってきます。その子供たちが今度はまた中学校でどんな学びを深めていってくれるのか楽しみに思うことです。

最後に、大野原いきいき祭りに、社会教育課長と二人で行って来ました。当日は、あまりいい天気ではなかったですけど、結果的に800人くらい来場者があったそうです。コロナ対策なのか、品物の展示というか、配置がこれまでと少し違って、人が真ん中に集まらないように、分散するような形になるように壁にコーナーを作って、人が集中しないような、人の流れができるような配慮がされていました。何を買ったかという、大野の焼酎「うのばい」と、何と言っても「つらさげ芋」です。実は、つらさげ芋は全国放送(NHK)で流れたそうです。その結果、発注というのか、外からの注文が多くて、通常であれば2月上旬まで在庫の芋があるのに、もうなくなるんじゃないかと、それまでもたないんじゃないかと思っております。ですので、お買い求めの際は早い方がよいかと思っております。今年の芋も甘くておいしかったです。

前田前館長さんご存じですか。前田清輝さん、あの人は面白いですね。何が面白いかと言えば、私はあえてこんなことを彼に振ってみたのです。

この前、公民館の経営協議会があったとき、私が清輝さんに、「前からずっとこんなことを考えていたんですけど、公民館同士の交流はできないで

すか。」と言ったら、「あー、教育長もそこまで考えておられるんですか？」って逆に言われました。「実は、すでに森さんとその話はしています。海と山がコラボしたらどんなことができるだろうか。そんなことをやっていくことで、地区公民館の活動が活性化していくんじゃないかと思って、そんな仕掛けも考えています。」とおっしゃっていました。「あー、そういう柔軟な発想がこれからは大事なのかな。さすがだな。」と私は思いました。自分の公民館だけで閉じる時代じゃないのかなという気がします。まあ、二つ、あるいは三つ作るという手もあるのかもしれませんが。そしてまた、効果性とか効率を高めていきながら、実は活性化を目指そうということも大事なのかなと思うことでした。

最後に、第一次産業についての南日本新聞記事。これは垂水の子供たちが書いた記事ですが、「未来につなぐ林業」と「カンパチの餌やり」。どちらも非常にいいなと思うことでした。何がよいかと言うと、最後の結びなのです。「こんなすばらしい仕事がある垂水をほこらしく思いました。」と結んだのは、「未来へつなぐ林業」を書いた、垂水小学校 5 年生の富田さんです。また、「カンパチの餌やり」を書いた協和小学校 6 年生の岩切さんは、「垂水だから体験できたと思うので、改めて垂水のよさを感じました。」というふうに結んでいます。いずれも垂水の魅力をまさに体験を通して実感したところなのです。12 月の 3 日、4 日に連続で掲載されましたが、この記事を見てすごく嬉しく思いました。また、こんな思いを抱いてくれる体験活動というのは、「いいな」と改めて思うことでした。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

6 閉 会

11月9日から12月8日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、12月9日から1月10日までの行事予定についてお知らせした。